

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

自然を感じる・自然に学ぶ／岡崎市根石保育園（愛知県）

子どもたちが身近に感じている野菜は、どんな野菜ですか？園ではどのような栽培活動をされていますか？今回は、野菜栽培を通して、野菜との関わりだけでなく、関連する自然事象・天候にも思いを巡らし、予想したり野菜の生長や変化と関連付けて考えたりしている子どもたちの姿をご紹介します。



● 栽培と天候／3～5歳児

✦ 事例1 種まき（5月上旬）

今年も野菜を育てようと期待する子どもたち。子どもたちの知っている野菜は、昨年園庭で栽培していたトマト、キュウリ、ナス、スイカなどの野菜。家庭でよく使われる野菜のニンジン、ダイコン、ジャガイモ、オクラ、ラディッシュ、マメなど様々な種類が挙がった。みんなで話し合い、「**毎日世話や観察ができるように**、（保育室が2階なので）ベランダ菜園にする」「育てる野菜は**生長が早く大きさも最適な**、ミニニンジン、ミニダイコン、ラディッシュ、オクラ、サヤエンドウにする」となった。さらに、**自分たちで活動できるように異年齢で構成された小グループ**を作り、プランターに絵を描いたり、野菜グループが分かるように表示をしたりして栽培の準備をした。

種まき当日は、「大きくなあれ」「おいしくなあれ」と声をかけながら、種まきをしてお水をたっぷりあげた。

次の日、登園するとみんなすぐにベランダに行き、芽が出ていない野菜の状態を見て、「まだ出てないね」「寝てるのかな」「水をあげなくちゃ」と、まだ芽が出ていない土に声をかけながら水やりをしていた。こうして、連日のように登園後すぐに野菜を見に行き、発芽を確認した子どもが、「**芽が出たよ！**」「やったー！」「見て見てー！」と大きな声で言い、その声にみんなが集まった。

歓声上がる中、「**ミニニンジンは出てないよ**」など、まだ芽が出ていない野菜に気付き、「もっと水をあげないと」「**何で芽が出ないのかな**」など、不思議に思う子どもがいる。その後、子どもと保育者は栽培の本を見たり、他の野菜が次々出てくる芽を発見したりして栽培物との関わりを楽しんだ。



✦ 事例2 水やり（5月中旬）

1週間が経ち、野菜はすくすくと生長していた。その頃になると雨や曇りなど、天候が不安定になった。5歳児は、「土に水をあげるんだよ」「葉っぱは水飲まないよ」と年下の子に教えてあげる姿が見られるようになってきていた。すると、Aちゃんが「**土が濡れてるからあげなくていいよ。あげすぎると腐っちゃうよ**」と言った。そこで、保育者が「そうなの。どうして知ってるの?」と尋ねると、「**お兄ちゃん（5歳児）が言ってたよ**」とAちゃんが答えた。保育者が「いいこと教えてもらったね」と言うと、Aちゃんは「僕 知ってるよ」と得意気に言った。すぐに、クラスみんなに水をあげる良い方法をAちゃんから知らせてもらった。

その後のやりとり1

Aちゃん：「今日は、雨が降るから水はあげなくていいよ」
保育者：「そうなの？」
Aちゃん：「僕、**天気予報見てきたから**」
保育者：「いつも朝 見てきてくれるの？」
Aちゃん：「うん」
保育者：「ありがとうね」

保育者は、このAちゃんの気持ちがとても嬉しかったので「ありがとうね」と言った。その日から、天気が不安定の時には、Aちゃんに天気を聞き、野菜栽培の参考に行っている。

その後のやりとり2

朝、母親分離に不安な様子の子どもも、「野菜大きくなったかな」「水をあげてくれるかな」と保育者に誘われ、水やりをするとだんだん笑顔になっていった。野菜栽培により、心が落ち着いたり穏やかになったりする姿がある。また、ベランダで野菜を観ていると、頬を優しくなでる風は吹いてきた。「**風が気持ちいいね**」とBちゃんが言うと、みんなも「気持ちいいね」「涼しいね」と言って風の心地よさを感じて楽しんだ。

風の心地よさに共感し、季節の変化をみんなで実感する機会をもつきっかけとなった。

事例3 雲（6月）

Aちゃんが「台風が近付いてきてるよ」「10号と11号だって」と言ってきた。保育者が「大変！野菜大丈夫かな」と言うと、Aちゃんが「台風ってすごい風と雨が降るんだよ。部屋の中に入れないよ」と言った。そこで早速、みんなでプランターを保育室の中に避難させた。

その後のやりとり1

Aちゃん：「先生、**黒い雲が来てるから、もうすぐ雨が降るよ**」
保育者：「本当だね」
Cちゃん：「**こっちとこっちの雲の色が違うね**」
Aちゃん：「黒い雲は、雨が降るんだよ」

発芽時も水やりの時も、みんなの後ろから見ていることが多かったCちゃんが、自ら気付いたことを言葉にして、やりとりをしている。栽培を通したCちゃんの変容が把握できる。

その後のやりとり2

昼食中に、Cちゃんが突然大きな声で、「先生、**黒い雲が来てるよ**」と言った。Cちゃんが指差した窓の方を見ると、大きな黒い雲が近付いてきていた。
Cちゃん：「**雨が降るよ**」
みんな：「ほんとだ」
保育者：「よく気が付いたね」
Cちゃん：「**こっちは明るいのにこっちは黒いよ**」

反対の窓を見ると、きれいな青空が広がっていた。しばらくすると、ものすごい雨が降り出した。

天候の変化に敏感な子どもがぞくぞくと増えてきたので、急な天気の変化にもすぐに対応できる。野菜栽培を通して空を見る習慣が付き、その変化に驚いたり発見したりする楽しさを味わいながら栽培活動をするようになってきた。

考察

栽培物の変化や生長への興味が深まることにより、観察の対象は広がっている。異年齢の関わりにより、水やりとの関係性を意識するようになっていたり、天候を気にして空を見るようになっていたりしている。雲の色や動きで雨が降る時を予想できることを知ってやりとりをする子どもたちの姿から、子どもたちの興味が野菜栽培を通して、様々



な自然事象に繋がっていったことが読み取れる。



無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム
幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」